



第3回 統計数理研究所リスク解析戦略研究センターシンポジウム  
「医薬品開発における生物統計家の貢献」  
主催： 統計数理研究所リスク解析戦略研究センター

日時： 2012年3月12日（月） シンポジウム 13:00-18:00

場所： 東京都港区港南 2-15-1 品川インターシティ A 棟 27F

京都大学東京オフィス第 2-3 会議室

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office/about/access.htm>

開会の挨拶： 本シンポジウムの趣旨	13:00-13:10
松井茂之（統計数理研究所），小山暢之（第一三共（株）），菅波秀規（興和（株））	
セッション1：企業統計家が抱えている課題 —企業統計家からの報告—	13:10-16:10
1) JPMA のこれからの試み 小宮山靖（ファイザー（株））	13:10-13:30
2) 企業の試験統計家として感じる理論と実務のギャップ 石塚直樹（サノフィ・アベンティス（株））	13:30-13:50
3) 抗がん剤臨床試験における多重性の調整の現状 今村 大（ノバルティスファーマ（株））	13:50-14:10
4) 新薬開発におけるベネフィット&リスク評価 長谷川貴大（塩野義製薬（株））	14:10-14:30
— 休憩 —	14:30-14:40
5) Model Based Drug Development (MBDD)におけるシミュレーションの運用と活用 富金原悟（小野薬品（株））	14:40-15:00
6) 抗がん剤第I相試験におけるベイズ流アプローチの活用 武田健太朗（アステラス（株））	15:00-15:20
7) 国際共同治験における日本人症例数の設定と試験結果の解釈 遠藤輝（グラクソ・スミスクライン（株））	15:20-15:40
総合討論	15:40-16:15
— 休憩 —	16:15-16:30
セッション2：産官学の連携に向けて	
医薬品開発における生物統計家の貢献： 過去、現在、未来 大森崇（同志社大学）、安藤友紀（医薬品医療機器総合機構）	16:30-17:00
産官学連携：相互理解を目指して 平川晃弘（東京理科大学）	17:00-17:30
総合討論	17:30-17:50
閉会の挨拶	17:50-18:00
椿 広計（統計数理研究所）	